

新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかに新年をお迎えになったこととお慶び申し上げます。

昨年末の第47回衆議院選挙では自民党が291議席を獲得し第3次安倍内閣が発足しました。自公両党で三分の二を超え、安倍首相の長期政権が現実味を帯びてきました。今後強気な政権運営をしていくものと思われまます。

公約には、医療・介護を切れ目のなく受けられる体制の確保と住み慣れた地域で暮らし続けるための地域包括ケアシステムの推進を心がけていました。

しかしながら、消費税率10%への引き上げが先送りされたため、これらの施策を実行するために必要な財源の確保は明確にされておりません。

国民の健康の回復および増進・利便性向上に資するために、新たな保険外併用療養費制度の仕組みである「患者申出療養」が創設されます。規制改革を推進し、あらゆる岩盤規制を打ち抜くとのことです。医療に市場原理を導入すれば、医療・介護に所得による格差が広がるのではないかと懸念しています。国民誰もが経済的多寡によって差別されることなく、質の高い医療が受けられる国民皆保険制度は日本の誇りです。なんとしても維持しなければなりません。

医療・介護における人材の確保のためには、介護職員の待遇改善を行うとのことですので期待したいと思ひます。

さて、皆さんの求める理想の医師とはどのような医師でしょうか。茨城県医師会では3年前から将来医師を目指す高校生による「理想の医師像」という作文コンクールを実施しています。今年も76人の応募がありました。彼らの望む理想の医師像は以下の五つにまとめられます。

1. 患者の気持ちを尊重し寄り添う、人間性豊かな医師
2. 患者に信頼される医師
3. 高い技術を持ち、絶えず学び続ける医師
4. 常に冷静で強い精神力を持つ医師
5. すべての人とコミュニケーションの取れる医師

これら五つの要素は、医師ばかりでなく看護師を始めとして医療従事者すべてに当てはまるものです。この理想に向かって日々努力していきたいと思ひます。

また、患者を生徒に、医師を先生に置き換えても全く違和感がありません。この理想像はおそらくすべての人々に求められているものでしょう。

昨年は、STAP細胞や降圧剤ディオバン問題など、日本を代表する研究所や大学がかかわる不祥事が多発し、国民の医療界に対する信頼を失いました。

医療者は高い倫理観を持ち、常に理想に近づこうと努力していかなければなりません。県民の安心・安全のために尽くしますのでご理解ご支援をお願い申し上げます。

新年が皆様にとりまして、希望に満ちた明るい年となることをご祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

理事長 小松 満





新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。

去年は、皆さんにとってはどんな年だったでしょうか。茨城県では大きな天災もなく、穏やかな一年だったように思います。全国県別人気ランキングでは連続の最下位となりましたが、本当にそうでしょうか。北海道に続き生産量全国2位の農業県で、那珂湊港を抱え魚も美味しく、常陸牛もローズポークもあり、天災も少なく本当に住みやすいところだと思います。先日も大阪出身の先生と話す機会がありまして、とても住みやすいところなので故郷の大阪ではなくひたちなか市に居を構えたとのことで、自分自身も全く同じ思いでしたので大変嬉しく思いました。郷土に愛着と自信を持って、地元を盛り上げていきたいと改めて思いました。私は格好をつけて東京出身ということにしていますが、本当は生まれは旧石下町（現常総市）で1才半に東京に引っ越し、大学は筑波大で卒業以来ずっと茨城に勤務しておりますので、生まれも人生の大半も茨城です。家内は家に執着はなく、家を建てるとその土地に縛られますので、ずっと借家が良いと言っていました。子育てが終わったら、北海道に移住したいとも考えていました。大学からの命令でひたちなか市に勤務することになりこの地で暮らし始めましたが、地域の人達も穏やかで親切で、自然も豊かで子育てもしやすく、家内がここなら家を建てて永住したいと言い出しました。そんな訳で平成12年に35年ローンで家を建て（35年生きている保証は全くありませんが、死んだら借金はチャラになるようです）、先日先祖代々のお墓もひたちなか市に改葬しまして、いつ死んでも大丈夫な体制となりました。

消費増税見送りのため医療福祉は財源引き締めとなり厳しい状況ですが、地域の皆様に少しでもお役に立てるよう職員一同更に努力してゆく所存です。死ぬまで地域のために働くつもりですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

院長 中島 宏





新しい巻き爪治療始めました



以前にアップル通信で巻き爪のお話、特に爪の切り方についてお話しさせていただきました。今回は巻き爪の治療についてお話しさせていただきます。

爪が巻いているだけではあまり問題になりませんが、もともと巻き爪があるところに窮屈な靴を履いたり、不適切な爪の切り方をすると巻いている爪の角の部分が皮膚に食い込んで、強い炎症を起こすことがあります（こうなると陥入爪という病名になります）。こうなると巻き爪の矯正が必要になります。

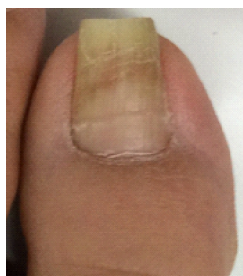
以前は弾性ワイヤーを用いて矯正していました。少し伸ばした爪の先の両端に穴をあけて、ワイヤーを通し、その弾性力で矯正する方法です。この弾性ワイヤーを用いた治療は爪を伸ばさなければならず、一度爪が矯正されても、ワイヤーを外ししばらくすると再発することがありました。

最近は3TO法というやり方で治療しています。この方法は爪縁に細いフックを引っかけて、ワイヤーで縛り上げる事で矯正します。この矯正法には次のような利点があります。

- ① 爪の元に装着するため、爪を伸ばす必要がなく、根本から矯正できる
- ② 矯正力の調整が簡単
- ③ 爪の元に着けるため爪が伸びるまで3-4ヵ月装着できる（経済的！）

爪にワイヤーを引っかけると聞くと“痛いんじゃないか”と思うかもしれませんが、今のところ痛がられたことはありません。ただし、ワイヤーを爪の形に合わせて曲げたり、フックを作ったりと職人的な作業なので、多少時間がかかります。

もし巻き爪でお困りでしたらスタッフにお声かけください。

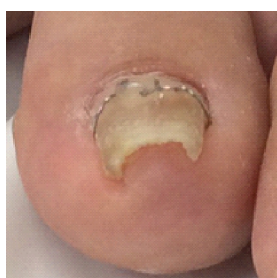


3 TO 装着前

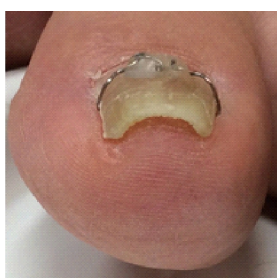


3 TO 装着後

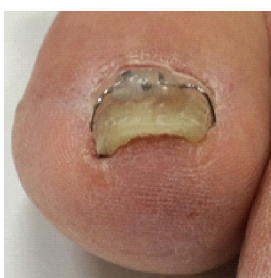
医師 小松 史



装着直後



1ヵ月後



2ヵ月後

